

マリンライフ

[Vol. 277]



2025 大阪・関西万博「BLUE OCEAN DOME (ZERI JAPAN)」催事に参加

4月30日、2025大阪・関西万博「BLUE OCEAN DOME (ZERI JAPAN)」のパビリオン催事に参加しました。今回の展示では、江田島の豊かな里海を象徴する希少生物「カブトガニ」や「ハクセンシオマネキ」を実際に観察できる生体展示を行いました。西原館長の講演や生体展示を通じて、来場された多くの方に海の生命の営みを身近に感じていただいたので、その内容を紹介합니다。

ブルーオーシャン・ドーム

ZERI JAPAN が出展する民間パビリオンの一つです。そのテーマは「海の蘇生」で、海洋環境の保全と持続可能な未来に向けた意識変革を促すことを目的としています。ブルーオーシャン・ドームは、「海と語り、海を深く理解し、持続可能に海を活用していくために、忘れられない体験をしていただき、またネットワークによって人間の叡智（えいち）を生み出すパビリオンです。」（海と話そう。より）海の持続的活用と生態系保全をテーマにした3つのドームで構成されており、ドームA「循環」では、超撥水塗料が施された装置で水の不思議な動きや循環の美しさを体験できます。ドームB「海洋」では、生態系の中に入り込んでいるプラスチックごみを高精細で臨場感のある圧巻の映像で表現しています。ドームC「叡智」は、海洋やプラスチック汚染とどう向き合うのか、解決の道筋を浮かび上がらせるための対話空間となっています。今回のイベントはこのドームCで行われました。

瀬戸内アーキペラゴ

2025年4月28日から1週間、「瀬戸内アーキペラゴ」と題し、瀬戸内海の多島海をテーマとして、未来の豊かな海について考える取組が行われました。その中で、4月30日に江田島市が、さとうみ科学館、株式会社 nu、関西大学田實研究室、一般社団法人フウドと協力し、「さとうみの命と人の業」をテーマにした体験型展示を行いました。※アーキペラゴとは、「多数の島がある海域」のことです。

さとうみの命と人の業

今回のプログラムでは、瀬戸内海の「さとうみ（里海）」が持つ多様な環境や生物の豊かさを紹介しながら、最新テクノロジーを用いて生命リズムを五感で感じてもらうとともに、アートを通じた環境問題についての啓発などを行いました。参加者は、生き物が棲む環境を知り、そこに起きている問題を知ることで、海洋プラスチックごみゼロに向けて、参加者それぞれが考え、理解を深める機会となりました。



◆ パビリオン催事参加報告 ◆



展示のテーマ「さとうみの命と人の業」は、瀬戸内海の豊かな生態系に着目し、三つの主要な分野に分けて展示を行いました。



1 生命の展示

さとうみ科学館による生物展示では、地域特有の希少な生物を紹介しました。カブトガニやハクセンシオマネキといった、瀬戸内海の生態系の重要な一部である生物たちを観察し、触れ合い体験を通じて、参加者に海の生命が織りなす営みを身近に感じてもらいました。

2 テクノロジーによる体験

株式会社 nu.と関西大学との共同研究によるもので、AI 解析技術を用い、ハクセンシオマネキの求愛ダンスのリズムを映像と音で可視化し、センサーを使って参加者が映像を動かす没入型展示を行いました。生命のリズムと最新技術の融合を体験してもらいました。



3 環境問題への取り組み

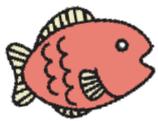
一般社団法人フウドによる「未来の海づくり大作戦」の発表では、漂着ごみを素材にしたアート作品「海ごみ妖怪」を展示し、江田島でのごみ回収の取り組みについて映像を上映しながら紹介しました。来場者に「環境問題について私たちに何ができるのか」を問いかけ、一緒に考えるきっかけをつくることができました。

以上が、「さとうみの命と人の業」の主な内容です。1時間半のプログラムを2コマ行い、プログラムの前後も含めて700名を超える多くの方に来場していただきました。プログラム開始前からカブトガニとハクセンシオマネキの周りには絶えず人だかりができ、解説を熱心に聞く方や水槽に張り付いてカブトガニを見る小学生など人々の関心の高さを感じました。カブトガニを見て「本当にこんな生き物が海にいるのか」と驚かれる方など今回初めて生きている姿を見たという方も多くいらっしゃいました。今回来場者の反応を見て、江田島の自然や生き物たちがいる光景は、魅力的で維持されるべきものであると改めて感じました。これからも、里海の自然を発信していきたいと思えます。

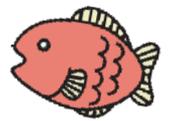
当日の様子は、【EXPO2025】BLUE OCEAN DOME のYouTube 公式チャンネルでご覧いただけます。【#017】さとうみの命と人の業～瀬戸内海が凝縮された里海に囲まれた島“江田島”～としてアーカイブ配信されています。右記のQRコードから映像をご覧ください、展示の臨場感を体験してみてください。



「さとうみの命と人の業」



里海の **旬**!! な生き物情報



波打ち際に集まるクサフグの群れ



産卵中に牡蠣殻の上に打ちあがるクサフグ



クサフグの周りに漂う卵

クサフグの産卵始まる!

初夏の風物詩のひとつであるクサフグの産卵が始まっています。5月12日午前9時半（大潮の満潮前）、以前からクサフグの産卵が確認されている場所へ行くとすでに多くのクサフグが集まっており、集団で同じ場所を行ったり来たりしていました。クサフグの様子を観察していると、おなかの大きな個体（おそらくメス）のおなかを複数の個体（おそらくオス）がつついている様子などが見られました。ある研究によると、産卵に集まるクサフグの9割はオスで、メスは1割ほどしかいないそうです。そんな数少ないメスに対して、オスは繁殖の機会を逃すまいと卵を産みそうなメスを探したり、見つけたメスについて泳ぎ回ったりしていたのかもしれない。

ゆっくり泳いでいたクサフグの群れは、ひとたび産卵行動が始まると一気に慌たせられ、群れをなして岸に打ちあがるようにメスの放卵に合わせてオスたちが放精していました。この時の産卵は1時間ほど続き、波打ち際一帯がクサフグの精子で白く濁るほど多くの個体が産卵に参加していました。

クサフグの産卵はおおむね5月から7月の大潮前後に砂利浜で行われ、満潮の2時間前から始まるとされています。産卵は全国各地で見られるものですが、ローカルルールがあるようで江田島の場合は、新月・満月の1～3日後、満潮時刻1～2時間前からの産卵が多く、産卵時期のピークが少し早いようです。また、砂利浜ではなく牡蠣殻の上で産卵している様子は、全国的に見ても珍しい光景です。海岸線が護岸された場所も多くクサフグが好む砂利浜が少ない江田島で、牡蠣殻が堆積した場所を産卵場として選ぶクサフグの姿を見ると、人工的な環境の変化に適応するたくましさを感じます。

サツキマスを確認!

珍しいものが獲れたと美能漁協から連絡を受け港へ行くと、広島県では準絶滅危惧に指定される「サツキマス」でした。サツキマスを獲った勝田友和さんによると、小黑神島付近ではたまたま網にかかるようです。サツキマス（アマゴ）は、サケ科の魚類で河川に残留する「アマゴ」と、海に降り成長し産卵に備えて遡上（そじょう）する「サツキマス」とに分けられます。5～6月のサツキが咲くころに遡上をするため、サツキマスと呼ばれています。広島県では、太田川などでアマゴの放流が行われています。これにより、個体数は維持されているようですが、ダムなどの人工物により遡上できないことや溪流の環境が悪化していることが問題視されています。また、アマゴの生息域にヤマメが放流され、交雑により遺伝子汚染が起こっていると考えられています。今回の確認が、広島湾での個体数増加の兆しになると良いですね。



サツキマス

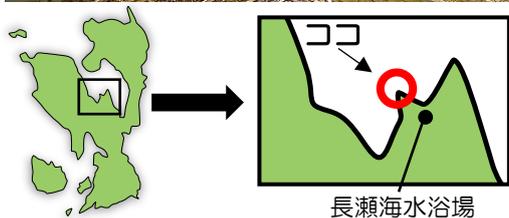
◆ 第203回自然観察会 ◆



トトウガ鼻で生き物観察!



能美町中町の長瀬海岸（トトウガ鼻周辺）で観察会を行います。ここは、令和5年まで旧能美海上ロッジの建物があった場所です。施設が無くなった後、海岸の様子がどのように変わったのか、地形や生き物を観察して確認してみましょう!



日 時：令和7年6月28日（土）
16:00~18:00
(干潮時刻 17:42 +21cm)

集合時間：16:00

集合場所：旧能美海上ロッジ駐車場

観察場所：トトウガ鼻周辺

申し込み：令和7年6月24日（木）16:00
までに事務局へお申し込み下さい。

持ち物：帽子、軍手、長靴、水筒（飲み物）、
タオルなど

潮見表 6月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
時分	7:28	8:25	9:29	10:37	11:40	12:31	0:54	1:44	2:26	3:03	3:39	4:14	4:51	5:30	6:12
cm	148	150	147	138	122	103	150	147	143	139	137	136	135	135	136
時分	19:27	20:21	21:23	22:36	23:51		13:14	13:51	14:26	15:00	15:35	16:12	16:50	17:30	18:11
cm	66	95	121	140	149		84	67	53	42	35	31	31	34	41
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
時分	6:56	7:44	8:37	9:37	10:43	11:48	0:24	1:32	2:30	3:22	4:10	4:55	5:38	6:20	7:01
cm	135	133	127	117	100	78	146	147	144	141	137	134	131	129	128
時分	18:56	19:44	20:39	21:44	23:04		12:48	13:43	14:35	15:25	16:13	16:59	17:42	18:23	19:03
cm	53	71	93	117	137		54	32	15	5	3	9	21	41	66

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

令和7年 潮汐表（海上保安庁）から

潮位30cm未満（白抜き文字）が調査に適しています。

事務局だより

●イベント専用Instagramを開設!

この度、さとうみ科学館が開催するイベントを紹介するInstagramを新たに開設しました。こちらでは、イベントの案内や活動報告等を行っていきます。右のQRコードからフォローしていただき、情報をGetしてください。



@SATOUMIKAGAKUKAN_EVENT

●ニュースレター(カラー版)

右のQRコードよりさとうみ科学館のHPにアクセスいただくとニュースレターをカラーでご覧になれます。最新号の他に過去6か月分のニュースレターを掲載しています。



●休日開館日(6月)のお知らせ

6月も毎週土曜日を開館。開館時間は9:30-17:00(入館は16:30まで)です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

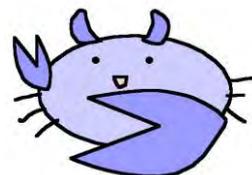
江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館 Satomi Science Museum (SSM)

〒737-2214
広島県江田島市大柿町深江1073番地1
TEL: (0823) 57-2613
FAX: (0823) 40-3100
メール: satoumimail@yahoo.co.jp
HP: 『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館長：西原 直久
専門員：平山 良太
主任：鎌崎 賢三
運営指導員：下中 茂樹
運営指導員：峯 哲士
支援員：木村 さつき
監修：向井 綾香



(友の会会員)
シニア 183名
ジュニア 143名

◆あとがき◆大潮の満潮前に海を見ると、列をなして波打ち際を移動しているクサフグの集団がいました。その後をたどって行くと、そこにはクサフグの一大産卵場がありました。波打ち際を移動しながら産卵に適した場所を探していたのでしょうか？(鎌崎)